

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

11. 叱咤激励が飛躍へ〔三祥印刷〕

1977年に製版会社として設立した三祥コーポレーション(株)(東京・荒川、金澤功社長、当時は有限会社三祥製版)は、製版から印刷、製本、配送までを自社で対応し、その仕事のスピードと品質を特長としている。現在は、営業や製版を担う(株)三祥製版、オフセット印刷を行う(株)三祥印刷、不動産などのサービスを行う(株)ミナエンタープライズ、に各事業を分割し、グループ全体をネットワーク化することで総合的な印刷サービスを提供している。

1983年に創業した印刷部門の(株)三祥印刷(金澤嗣浩社長、従業員80人)は、東京・荒川に本社を構え、埼玉・川口に印刷・製本工場をもつ。川口は工場の多い地域でコンビニよりも印刷会社の方が多そうだが、同社の工場もその一つだ。

現在、印刷機は油性の、四六全判5色両面機1台、四六全判5色機2台、菊全判5色機2台、菊全判4色機1台、菊半裁判5色機1台、菊半裁判4色機2台と、省電力UV機2台(菊全判5色・5色両面機1台、四六全判4色機1台)があり、ポスターやチラシ、カラーページものなどを中心に手掛けている。

自信作を持ってこい

大場幸廣工場長の話しによると、厚紙や絵柄の重い油性オフセット印刷の仕事が多く、同社もご多分に漏れずパウダーに起因する汚れなどのトラブルに悩まされていた。そのため、2014年4月にT&K TOKA が発表したパウダーレスインキ「キレイナ」に飛びついたという。パウダー散布量を

半分でも減らせるなら、と、すぐにテストを開始した。

しかし、まだ発表されたばかりの初代キレイナには課題も多く、同社からのダメ出しとメーカーの改良を繰り返した。同社は平均ロット5000枚ほどの仕事が多く、小ロットの印刷では表れてこないようなアラが見つかったという。マット紙での着肉不良や、ドットゲインにより掛け合わせの色が変わって安定しないといった問題が出た。さらに、当初はまだ対応する用紙が限定されてしまうことも大きく、いったん導入を見合わせる事となった。同社はちょうど2015年秋に生産設備を同工場に集約する予定だったため、それに合わせてテストなしで採用できる「自信作を持ってこい!」とメーカーへ宿題を出す形になった。

メーカーはその後、ほかの印刷会社でもテストを行いインキの改良に取り組んだ。キレイナは、特殊なビーズ、樹脂、ワックス、乳化抑制ワニスで構成されるが、ビーズの量を調整するなどして解決を図った。三祥印刷での試行錯誤が、キレイナの飛躍につながったと言えるだろう。



菊全判5色機薄厚兼用機。現在、すべての油性印刷機でキレイナを使っている

パウダーが3分の1に

そして2015年10月、ふたたび三祥印刷での挑戦となった。同社が要望した通り課題は克服されており、テスト不要で導入となった。たとえば、写真集やポスターで人物の肌の色を最初のキレイナでは刷れなかったそうだが、問題なく使えるようになった。

大場工場長はキレイナを導入してからも、現場にパウダー量を減らすよう指示している。インキの過乳化を抑え、インキを薄厚かつ着肉を良くするために湿し水も絞らせている。すると、パウダーの散布量が従来の3分の1になった。条件がそろえば、仕事によってはパウダーゼロで印刷することもある。以前はPP貼り加工で1年に何回か発生していたパウダーによるトラブルが、なくなった。また、以前は朝にメンテナンスした印刷機を昼には再度掃除していたのが、今は夕方に1回の掃除だけで済むようになった。ブランケットの自動洗浄も5000枚に1回程度だという。

同社は今後、コスト・メリットを検証していくつもりだ。キレイナは今のところ通常の油性インキより価格が高い。重い絵柄の比較的ロングの仕事が多い同社には、インキ単価アップは即コストアップになるかもしれない。

しかし前述のような、使用面での手応えがあることは確かであり、効率アップや時間短縮、トラ

ブル削減などトータルコスト・メリットを見る必要があると考える。

技術による前進

三祥印刷は「技術による前進」をキャッチフレーズにしており、最新鋭の技術を貪欲に取り入れている。初代キレイナのテストでは、メーカーにインキのダメ出しをする前に、印刷現場でできるあらゆる改善策を試したそうだが、新しい資材や機材をただ採用するだけでなく、最大限使えるように自分たちの技術も磨いていく、そのようなところにも同社の姿勢が表れている。

また、2016年9月には小森コーポレーション製の省電力UV印刷機を導入する予定だ。これは同社オリジナル仕様の四六全判機で、全胴自動一斉版替え機能を搭載するという。UV機増設の背景には、リーマンショック以降、厚紙対応や短納期など顧客の要望が厳しくなったことや、大手印刷会社からのUV印刷指定の外注の仕事が増えたことにある。しかし油性でしかできない仕事も多数あり、油性とUVを半々での体制を整えていくためには、隣接する印刷機は極限までパウダーを減らしたいと考えているようだ。となれば、油性印刷では、やはりキレイナが大きな武器になる。同社へ外注している大手印刷会社も、キレイナには興味津々だという。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワン KIRÉINA」誕生。

キレイナ印刷
キレイナ加工
キレイナ機械
キレイナ工場

BEST ONE
KIRÉINA

T&K TOKA®

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577